

私は、大阪維新の会大阪市議員団を代表し、吉村市長の退職申し出に対して賛成の立場から討論いたします。

平成 27 年 11 月 22 日の市長当選以来、一貫して大阪都構想への再チャレンジを目指し、府市協調、府市統合路線を一直線にひた走ってきた吉村市長に対しては、心からの感謝と敬意を表します。

この間、府市協調の大きな成果として G20 の大阪誘致、そして橋下前市長時代からの念願であった大阪・関西万博の誘致など、市政においてはこれまでなし得なかった大きな成果を上げてこられました。

これも吉村市長、松井知事における類まれな行政手腕と、バーチャル都構想といわれるお二人の関係からの賜物であることを強く実感しております。

一方で、この府市の蜜月関係はあくまで俗人的なものであり、いつ崩壊し過去の府と市を合わせて「不幸せ」と言われた時代に戻るのかという心配はつきません。

そして、多くの市民が過去の大阪に戻してはいけないという強い思い、また過去の大阪にいつか戻ってしまうという漠然とした不安を持っています。この状態を改善し、大阪を前に進めることが、大阪市長として吉村市長に課せられた大きな課題であるということは明白です。

そういった中、公明党大阪府本部に属する府議会、市会の皆様との共通の認識の下、大阪の将来をよりよく一歩でも前に進めていこうとの合意書の下、府議会、市会における議決を経て法定協議会が設置され、大阪都構想の議論が再び始まることになったのです。

そして、既に法定協議会では 2 年以上の議論が進められておりますが、公明党の皆様からの協力が次第に弱まりました。自民党と共産党は首尾一貫、一致結束し、都構想には反対の姿勢です。先週 3 月 7 日に行われました法定協議会において、今井会長から提案のあった市長の任期中に住民投票を行うスケジュール案に対して公明党が反対をしたため、否決をされるという事態に直面を致しました。

現在の大阪の政治情勢においては、前回の住民投票にも賛成をして頂いた公明党の協力を得なければ法定協議会、両議会での議決の見込みはなく、市民の皆さんに賛否を問う住民投票は絶望的となりました。

これは、4 年前の選挙において吉村市長に投票した多くの市民の期待を裏切るものであり、到底容認できるものではありません。

そして、多くの大阪市民が抱く、将来の大阪への不安や、過去の大阪に戻さないという大きな意思表示である都構想の議論を、法定協議会や議会だけの議論で打ち切ってしまうと、本当にいいのでしょうか。

国政においても衆議院解散によって民意を問うことが行われており、最後は選挙で皆様に決めていただくというのが民主主義の根幹であり、再度選挙に打って出られることは、民意を改めて聞くという極めてまっとうな態度であり、我が会派としても積極的に容認いたします。

また、再選による残任期間を考慮し、税を預かる立場の首長として、知事・市長がお互いの立場を変えて立候補するということは、税をムダにしないという我が会派の考え方とも合致します。

しかしこれを「税金の無駄遣い」という声がありますが、本当にそうでしょうか。

我が会派が調べたところによると、今回の市長辞職による市長選挙は、統一地方選挙とともに実施することになり、補正予算が組まれますが、11月の知事・市長選挙の予算14億円が不要となり、8億円以上経費が節約できることが判明いたしました。税の無駄遣いではないどころか、大きな市民負担の軽減をもたらす結果となることが明らかになりました。

今回の市長の退職申し出については、3月20日の終了をもって退職するというものですが、本日、新年度の予算をしっかりと成立させるとともに、知事選の告示日前日まで、市長としての責任を可能な限り果たそうとするものであり、我が会派はその考え方に賛同するとともに、この退職申し出を認めるべきであると考えます。

以上を踏まえ、市長当選以来の主張である大阪都構想・再チャレンジを再度、市民・府民に問いかけるため再び選挙に臨まれることをお願いし、退職申し出に対する賛成討論といたします。

ご清聴ありがとうございました。